

【自衛艦隊司令官挨拶】

海将 齋藤 聡



昨年12月23日をもって第52代自衛艦隊司令官を拝命しました齋藤です。横須賀での勤務は、若い時分の艦船勤務や横須賀地方総監部副官にはじまり、近年では第1護衛隊群司令や護衛艦隊幕僚長、そして約1年前、護衛艦隊司令官離任時に横須賀在住の関係者の皆様に惜別のご挨拶をしたばかりであり、早々に戻ってこられたのも特別な横須賀との強い絆・ご縁を感じる次第です。



横須賀水交會の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今年の5月8日をもって、新型コロナウイルスの取り扱いが5類に引き下げられることを皮切りに、この3年間自粛していた我々が主催する各種行事も少しずつ再開できるものと考えています。自衛隊の活動を国民の皆様により一層ご理解いただけるように自衛艦隊総員で取り組んで参りますので、引き続き、横須賀水交會の皆様のお力添えをお願い申し上げます。

さて、私が着任した昨年12月に戦後の安全保障政策の大きな転換である戦略3文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画)の改訂が行われました。大きな変更点の1つとして挙げられるのは、反撃能力の保有であります。戦後これまで

発行 令和5年4月24日(月)
編集 横須賀水交會事務局

政策判断として、保有することとしてこなかった能力であり、昨今のミサイル技術の高度化(超極音速・変則軌道)に伴い、既存のミサイル防衛網だけでは完全な対応が困難になりつつある情勢を踏まえたものです。係る能力強化を含め、防衛費については、今後5年間で43兆円まで増額することが決定されました。こうした大きな転換を迎えた背景には、言わずもがな昨年生起したロシアによるウクライナ侵略をはじめ、中国の不透明な軍備増強、北朝鮮の核開発や度重なるミサイル発射等、我が国周辺の安全保障環境が戦後最も緊迫した状況であるからだと考えます。(次頁へ)



横須賀水交會主要行事予定

令和5年9月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報には横須賀水交會ホームページ(<http://y-suikoukai.daa.jp/>)を御確認下さい。

- 1 馬門山海軍墓地墓前祭
 - (1) 期日 5月13日(土)
 - (2) 場所 馬門山海軍墓地
- 2 海軍の碑記念行事
 - (1) 期日 5月27日(水)
 - (2) 場所 ヴェルニー公園
- 3 5年度総会・講演会・懇親会
 - (1) 期日 6月1日(木)
 - (2) 場所 よこすか平安閣
 - (3) 詳細は、HP、案内状参照
- 4 第42回ゴルフコンペ
 - (1) 期日 6月8日(月)
 - (2) 場所 南総ヒルズCC
 - (3) 詳細は、【お知らせ】参照
- 5 靖国神社月例参拝
 - (1) 期日 6月22日(木)
 - (2) 場所 靖国神社等
- 6 横須賀夏季防衛講座
 - (1) 期日 8月19日
 - (2) 場所 記念艦「三笠」
 - (3) 詳細は、HP、案内状参照

防衛力の抜本的強化は、いついかなる形で力による一方的な現状変更が生起するか予測困難であることから、速やかに実現していく必要があります。したがって、これまで以上にスピード感を持った防衛力整備は必要不可欠です。長年にわたり続いた防衛予算に関する抑制的な思考を当面の間は一新し、柔軟性ある研究開発の推進や我々の運用の根幹をなす後方基盤の安定を含む、各種事業提案を積極的に統幕・海幕へ働きかけると同時に、周辺海域における一瞬たりとも気の抜けない部隊運用、不測の各種事態に適切に対応するための持続性のある部隊づくり日々精進してまいります。

をどう対処するか」を念頭に、日米共同訓練を主軸に各種任務を整齐と実施しているところであり、加えて同志国等との連携強化もより一層図っていく所存です。

このような情勢を踏まえ、私は着任時の勤務方針を「精強・即応・誠実」としました。

精強・即応はこれまで海上自衛隊伝統の目標であり、その重要性は一層増すばかりであります。誠実については、軍事組織の目標としてはやや奇異に感じる方もおられると思います。これまでにない規模の防衛予算が認められ、国民の負託に誠実に応えらるとともに、戦略3文書で求められる姿へいち早く成長していくことが求められる自衛艦隊として、その基盤を強固なものにするため、あえて誠実を掲げたいものです。私をもとより、自衛艦隊総員が誠実に勤務し、我々の活動が国民の皆様によくご理解いただけるように全力で勤務してまいります。

末尾になりますが、海上自衛

隊は昨年創設70周年の節目を迎え、帝国海軍77年の歴史を超える日が刻々と近づいて参りました。これまで諸先輩方が築きあげた伝統を継承し、また新たな時代への変化に適合することで、「戦わずして勝つ、戦いでも勝つ」精強な自衛艦隊の組織づくりに邁進していく所存ですので、尚一層の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、横須賀水交会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

【特別寄稿】
試験艦「あすか」部隊研修

鈴木 千春

(横須賀水交会会員・編集プロダクション(株)ぷれす所属。時おり「MAMOR」に海自の取材記事など執筆)



10月29日〜11月13日まで横須賀の街は「フリートウィーク」でネイビー一色。2022年は海自創設70周年、そして20年ぶりの国際観艦式に向け、艦艇一般公開や音楽演奏、パレードなど各種イベントがもりだくさん。そのさなかの10月30(日)、部隊研修として試験艦あすかに乗艦させていただきました。艦艇開発隊所属の「あすか」は、艦艇に搭載する装備品の実用試験を行う、世界でも珍しい艦です。

晴れ渡った秋空、絶好のクルージング日和！横須賀水交会として3年ぶりの部隊研修ということもあり多数の参加者が棧橋に集合、旧交を温めたり、艦艇を見上げて乗艦の時を心待ちにしていました。

13時50分「出港用意！」ラッパが鳴り、試験艦あすかは、約210名を乗せて出航しました。

めったに乗艦できないあすかです。ワクワクしながら見学エリアを巡りました。あすかには砲塔はなく、魚雷発射管も右舷のみ、試験中乗艦する民間技術

者の安全のため、通路の手すりを増設し、廊下の幅を広くし、(中は見られませんでしたが)100名もの宿泊設備があるそう、護衛艦とは異なっています。乗員数70名と少ないため通常運航でも常に一人何役も兼任になるとか。

あすかの行動は年度計画を立て、念入りに準備すること。しかし台風などで予定が変更になると、すべてが調整し直しになる。また、装備品の試験は何度も繰り返し行われるため、そのたびに搬入、実装、試験、撤去作業が発生し、少人数ゆえの乗員のご苦労を想像しました。

さらに試験艦として唯一の存在であるあすかは27年という艦齢。日本の国防にとって特別な艦です。乗員は大切に手入れして行きました。しかし、いざ退役のとき、後継艦をどうするのか、今後の実用試験はどうなるのか?と心配になりました。政府は「国防の意志・覚悟」を示し、一刻も早く潤沢な予算を手当てしてほしいと艦内を拝見しな

がら思いました。

航海中、艦橋にはたくさん参加者がひしめき合っています。艦橋で印象的だったのはキビキビ、ハキハキした女性幹部、通信士のF2尉の姿。海図に素早くラインを引く彼女に、お話しを聞きました。突然の質問にイヤな顔ひとつせず丁寧に対応してくれた彼女は、海自には海士で入隊し、その後幹部になった方でした。幹部になって1隻目はたかぜ、2隻目があすか。海士時代から数えるとあすかは6隻目とのこと。「努力されて幹部になつて、貴女はがんばり屋さんですね」と言うと、ニコッと照れて謙遜されながらも「幹部になつてからは視野が変わりました」と、リーダーとしての言葉に頼もしさを感じました。

甲板に出ると、心地よい風。参加者と楽しく交流している間に艦は港に戻りました。すぐ間近に曳船で活躍する隊員の姿も見られて大変嬉しかったです。

その後の懇親会も大盛況。抽選会では、参加者のために豪華

賞品を多数ご用意いただき、心より感謝申し上げます。海上自衛隊の各部隊の皆様、部隊研修を企画してくださった横須賀水交會の皆様、ありがとうございました。

【横須賀散歩】

火猿

「開港碑」

ヴェルニー公園を歩いていると「開港碑」がありました。横須賀製鐵所の建設を推進した小栗上野介と仏技師ヴェルニーの胸像が置かれている「開明広場」の一角です。今まで気が付きませんでした。

昭和28/1953年5月に、ここ臨海公園で「開港祭」が行われたそうですが、その時に建立されたようです。碑には「両氏ノ功ヤ横須賀市今日ノ礎ナリト信ズ」とあります。小栗公は、大政奉還後に徹底抗戦を主張したため役職を解かれ、領地の上野国群馬郡権田村で官軍(薩長軍)に斬首されましたが、その村(現、高崎市倉渕町権田)から寄贈された河原の石

も「記念石」として置かれています。(火猿)

「開港碑」

寄附者の中に「株式会社小泉組」とありますが、小泉純一郎元総理の祖父、又次郎さんの会社です。



「記念石」



小栗上野介とヴェルニーの胸像は、大正11/1922年9月に除幕されましたが、昭和17/1942年に海軍工廠が金属供出の為に撤去しました。現在の胸像は、昭和27/1952年に造られた二代目です。なお、台座は大正11年当時のものです。



【参加行事等紹介】

1 海上自衛隊

創設70周年記念

国際観艦式2022

演奏会

令和4年11月4日(金) 18時から、横須賀市汐入にある「よこすか芸術劇場」大劇場にて、「海上自衛隊創設70周年記念 国際観艦式2022演奏会」が開催されました。永田横須賀水交會会長及び松下幹事長の2名が招待頂き参加しました。



く、アメリカ第7艦隊音楽隊、インド海軍音楽隊、パキスタン海軍音楽隊が招かれ、国際色豊かで豪華な演奏会になりました。アメリカ第7艦隊音楽隊は、1943年にアメリカ第7艦隊

が発足して5年後の1948年創設され、現在は、横須賀を拠点に前方展開し、第7艦隊の地域交流活動における主要な役割を担っているそうです。本演奏会では、「シング シング シング」というアメリカらしいスタンダードジャズなど9曲を演奏しました。なかでも、声量豊かな女性ボーカルによる「横須賀ストーリー」は会場の横須賀市民の心を鷲掴みにしました。

インド海軍音楽隊は、1947年、軍楽隊長ヒルズ少佐のもとでわずかな隊員で創設され、世界中で開催される主要な海の行事、国際観艦式、海軍記念日行事等に参加されてきたそうです。インド海軍テーマ曲等5曲の演奏でした。

次のパキスタン海軍音楽隊は、1947年に創設され、国歌や軍歌を演奏する事により将校、下士官及び水兵に軍人としての誇りと士気を与え、儀式の支援を行う事を主な役割としているそうです。「パキスタンよ永遠に」等5曲の演奏でしたが、演奏の

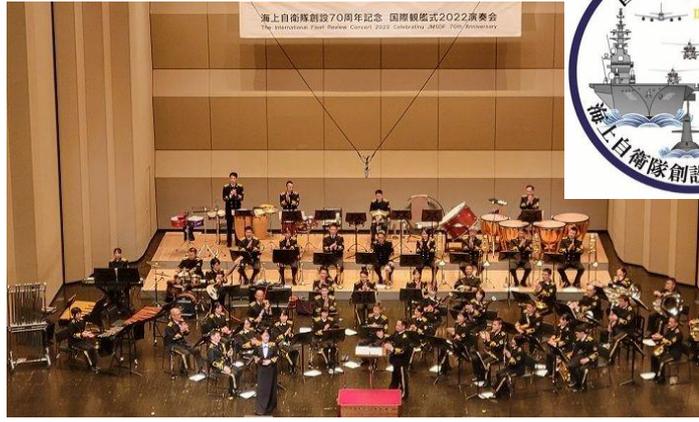
最後の方で聞きなれたメロディが挿入されていました。それは、『小さい秋見つけた』でした。

プログラム Program

<ul style="list-style-type: none"> アメリカ第7艦隊音楽隊 U.S. 7th Fleet Band 1 In the Mood 2 Chattanooga Choo Choo 3 The Chicken 4 Yokosuka Story 5 Georgia on My Mind 	<ul style="list-style-type: none"> 6 Sing Sing Sing 7 It Don't Mean a Thing 8 Anchors Aweigh 9 Stars and Stripes
<ul style="list-style-type: none"> インド海軍音楽隊 Indian Naval Band 1 Renaissance インドフュージョン音楽 2 Ye Jo Des he Tera インド国歌 3 Koi Kahe Kehta Rahe インド邦楽/クラシック 4 Yashasvee - 75 Years of Glory インド独立75周年記念曲 5 Jai Bharati インド海軍テーマ 	<ul style="list-style-type: none"> パキスタン海軍音楽隊 Pakistan Navy Band 1 Dil Dil Pakistan 私の愛するパキスタン 2 Jeevay Jeevay Pakistan パキスタンよ永遠に 3 Is Parcham Key Sahey Taisey Hum Aik Hain パキスタン旗の下での団結 4 Saif Ul Malook ファンク/ストリート 5 Chandni Raatein ぼくが恋
<ul style="list-style-type: none"> 海上自衛隊音楽隊 JMSDF Band 1 波に映るは曉の色 Reflection of Dawn in the Waves 2 霧が待たず曲 Kimigayo March 3 鎌倉殿の13人 メインテーマ "The 13 Lords of the Shogun" Main Theme 4 上を向いて歩こう Sukiyaki 5 珊瑚色の地球 Lapis Lazuli Earth 6 海の見える街 A Town with an Ocean View 	

※曲名により、曲の一部を異なる演奏者が行っています。

最後は海上自衛隊音楽隊で、陸・空中央音楽隊及び全国6か所に所在している海自音楽隊の精鋭合同チームでした。指揮者の東京音楽隊長曰く、「二度とない贅沢なバンド」とのことでした。披露された曲は、海自創設70周年及び東京音楽隊創設70周年記念委嘱作品『波に映るは曉の色』や三宅2曹が歌う『珊瑚色の地球』、現在放映され、注目を浴びている『鎌倉殿の13人メインテーマ』等6曲でした。そして、『アンコールに込めての』『行進曲軍艦』で大いに盛り上がったところでフィナーレとなりました。



た。それぞれの国や軍の代表的楽曲の演奏で、なかなか聞く機会のない音楽を堪能しました。世界は海で繋がり、音楽で繋がっている事を深く感じたひと時でした。

海上自衛隊70周年を祝し、厳しい環境ですが今後の海上自衛隊のご活躍を祈念しております。

(石井 順 幹事 記)

2 横須賀国際レセプション

2022

令和4年11月6日、20年振りの国際観艦式及びフリートウィークで盛り上がる横須賀にある「メルキュールホテル横須賀」で「横須賀国際レセプション2022」が開催されました。主催は横須賀市及び横須賀商工会議所でした。

レセプションには、西太平洋海軍シンポジウム参加国及び同オブザーバー国約20か国の海軍のトップ、駐日大使又は代理及び武官等の他、在日の米海軍からトーマス第7艦隊司令官、ラティ在日米海軍司令官など多数が招かれていました。また、海上自衛隊からは酒井海上幕僚長、湯浅自衛艦隊司令官、乾横須賀地方総監はじめ横須賀の各級指揮官が勢ぞろいし、国際観艦式の夜にふさわしい豪華な集いになりました。なお、横須賀水交会にも声がかかり、永田会長、松下幹事長及び2名の副会長代理が参加しました。

レセプション会場に入ると雅

楽による出迎えあり、開会までのひと時を贅沢に楽しみました。レセプション開始の案内と共に雅楽の説明後、謡が始まりました。わが国の伝統芸能ながら私たちにも馴染みが薄くなった楽器が奏でる曲が海外のゲストの耳にどのようなように届いていたのか興味深いものがありました。



また、会場には三浦一族の甲冑3領(三浦荒次郎義澄、三浦平六義村、和田小太郎義盛)が展示されていました。

開会後は、上地横須賀市長挨拶、酒井海上幕僚長の英語によるユーモアを交えた挨拶、マイケル・E・ギルディアアメリカ海軍作戦部長の挨拶と続きました。横須賀市の自然・文化等の紹介のビデオの上映もあり会場を盛り上げていました。



永井横須賀市議会副議長の発声により乾杯が行われ、会場は多国間の懇談の場となり大いに盛り上がりました。また、和太鼓、笛による演奏もあり、華やかにかつ日本の文化、おもてなし満載のレセプションとなりました。

平松横須賀商工会議所会頭から閉会の挨拶があり、レセプションは終了いたしました。

最後に会場を出る際、参加者総員に本レセプションの記念として藍染の手拭いが配布されました。その手拭いは、主に染色技術をを用いて創作捜索活動をしている山本愛子氏の作品で、山本氏は現在、横須賀市内の森林に囲まれた谷戸にあるHIRAKU(アーティスト村)で芸術を通じた地域コミュニケーション活動から、国内の他、インドネシア、中国、台湾などアジアを中心に活動されているそうです。



(石井 順 幹事 記)

3 令和5年横須賀防衛団体

新年賀詞交歓会

令和5年1月14日(土) 13時30分から、横須賀商工会議所多目的大ホールにおいて横須賀地区の防衛関係者にとつては新年の幕開け行事ともなる「令和5年横須賀防衛団体賀詞交歓会」が、3年振りに開催されました。

本会は、水交會を含む横須賀市に事務局を置く防衛関連の団体※が共催し、横須賀地区に在籍する陸・海・空自衛隊等の長及び先任伍長のほか、横須賀市長等を招いて新春の賀詞を交歓するとともに、自衛隊を激励し、併せて、各団体、会員相互の親睦を図ることを目的に毎年実施しているものです。

当日は、生憎の雨模様となりましたが、約200名の関係者が参加し、横須賀水交會から永田美喜夫会長、松下泰士幹事長のほか多数の会員が参加しました。

開会後は、国歌演奏に引き続き、共催団体を代表して平松廣司横須賀防衛協会会長からの挨拶、

来賓代表として上地克明横須賀市長及び乾 悦久横須賀地方総監の2名の方から祝辞がありました。



来賓紹介では、国会から小泉進次郎衆議院議員、古屋範子衆議院議員及び佐藤正久参議院議員が、地方自治体から逗子市長、葉山町長、神奈川県議会議員、横須賀市議会議長及び鎌倉市議会議長がステージ上でそれぞれの立場で防衛に関する熱い思いと

決意が語られたほか、市会議員、防衛諸団体の上位組織の長等及び海上自衛隊から齊藤聡自衛艦隊司令官、福田達也護衛艦隊司令官、俵千城潜水艦隊司令官、陸上自衛隊からは濱崎芳夫陸上自衛隊通信学校長兼久里浜駐屯地司令、富崎隆志高等工科学学校長兼武山駐屯地司令、航空自衛隊からは清水秀明武山分屯地司令をはじめ臨席の自衛官の紹介がありました。



このあと、感染予防から恒例の鏡開き及び乾杯の発声を行わず懇談の時間となりました。アルコール飲料のない懇談となりましたが、陸・海・空自衛官、来賓、自衛隊OB、各団体会員等が久し振りに集まったことで会場

内のあちらこちらで、和氣藹々と懇談する姿が見受けられ、大いに盛り上がりました。

楽しい時はあつという間に過ぎ、最後に、濱崎陸上自衛隊通信学校長兼久里浜駐屯地司令の一本締めにより、賀詞交歓会はお開きとなりました。

横須賀は、三自衛隊統合を代表する街であり、日米同盟及びその他の国との安全保障協力の拠点ともなっています。

これを支える横須賀防衛団体の存在と責任の重さを強く感じました。

※ 横須賀防衛協会、隊友会
横須賀支部、横須賀水交會、三笠保存会、隊友会
武山三浦支部、自衛隊家族会
三浦半島地区会、三浦半島自衛官募集相談員会、桜遊会

(石井 順 常務幹事 記)



4 海上自衛隊横須賀音楽隊

第57回定期演奏会

令和5年3月3日(金) 19時から、昨年にリニューアルされた「横浜みなとみらいホール大ホール」にて、海上自衛隊横須賀地方総監部主催「海上自衛隊横須賀音楽隊 第57回定期演奏会」が開催されました。

横須賀水交會からは会長代理として私他1名が参加し、素晴らしい音楽を堪能させて頂きました。

来場者は、海上自衛隊では潜水艦隊司令官他各指揮官等、米軍関係者、一般招待者及び応募者等で、1,423名だったそうです。

大ホールの入り口付近で隊員の方々が海上自衛隊関連の模型等を展示し、海上自衛隊の広報活動をしていました。

開演までのひと時を横須賀音楽隊8名による「カモメが翔んだ日」等の歌と演奏とで楽しませて頂きました。

演奏会は、乾 悦久横須賀地方総監の御挨拶に引き続き、第

1部 歌劇4曲が始まりました。

「軽騎兵」序曲、「椿姫」セレクション、「蝶々夫人」より『ある晴れた日に』、「サムソンとデリラ」より『バツカナル』でした。演奏された曲自体馴染みのあるものもありました。また、1部の指揮者である岩田知明1尉の指揮は、曲に合わせ舞うようでしたので、そのパフォーマンスからも躍動感を感じさせて頂きました。

2部は、横須賀音楽隊長北村善弘1尉の指揮で、日本をテーマにした、吹奏楽のための「風の舞」、土蜘蛛伝説「能「土蜘蛛」の物語による狂詩曲(木管8重奏)、火の伝説、日本の四季」21世紀に歌い継ぎたい日本の歌メドレー、三つの音詩「暁の海」白の海「蒼の海」(平成23年横須賀音楽隊委嘱作品)の5曲でした。

どの演奏の前にも曲目の紹介があったおかげもあり、目の前にその曲のイメージ画像が浮かび上がるような感じさせました。迫力ある演奏でした。

過去の経験から、自衛隊の音楽隊の定期演奏会は、

重厚なクラシックの曲が続くというイメージを持っていましたが、今回は、オードブルのところにそれぞれの曲目のおいしいところをきれいにそろえて頂いたようで、大変楽しむことができました。

アンコールは、歌唱を含む曲が1曲、そして最後の最後はもちろん「軍艦行進曲」で会場は大変盛り上がり終了となりました。

音楽のすばらしさを再認識したコンサートでした。海上自衛隊横須賀音楽隊第57回定期演奏会の開催を祝し、横須賀地方総監部及び横須賀音楽隊の皆様にも本コンサートの開催に感謝します。(石井 順 幹事 記)



5 掃海艇「はつしま」の転籍
壮行行事

3月9日(木)午前、逸見岸壁において、第1掃海隊所属掃海艇「はつしま」(艇長・山口光男1等海尉以下、乗組員43名)の舞鶴転籍に伴う壮行行事が横須賀地方総監(乾悦久海将)により執り行われました。

行事では、乾総監から壮行の辞が述べられ、次いで横須賀市長代理 田中茂 副市長から挨拶がありました。

どちらにも挙げられたのが昨年4月知床沖観光船事故の捜索活動での活躍でした。その後、山口艇長が出港挨拶を行い、横須賀音楽隊の演奏に合わせて乗組員が掃海艇に乗艇、舷梯を取り込んだのち、機敏な動きでスマートに出港しました。

岸壁には、乾横須賀地方総監をはじめ、田中茂 副市長、大野忠之 横須賀市議会議長、横須賀防衛協会会長代理 鈴木稔 副会長、海上自衛隊横須賀所在の各級指揮官、幹部及び多数の隊員が参列し、別れを惜しむとともに

に舞鶴転籍後の引き続きの活躍と健闘を祈りました。

特に掃海部隊からは多くの隊員が集まり、海上ではY岸壁の陰から突如現れた10隻を超える処分艇(機雷処分用のゴムボート)が「はつしま」に接近し、高速走行を見せて掃海部隊らしく壮行を締めくくりました。

今回は参列者の制限により、横須賀水交会からは永田美喜夫会長のみの参列になりましたが、コロナ禍前のように多数の会員により自衛艦旗の小旗を振って見送る日も近いことでしょう。

(一瀬良文 事務局長記)



6 横須賀教育隊修業式に
横須賀水交会会長参列

横須賀水交会(会長・永田 美喜夫)では、令和5年3月24日(金)横須賀教育隊での修業式に参列し、会長が激励賞を授与しました。

巷でも学校行事におけるマスク着用の要否が話題となつている中、横須賀教育隊では、個人の判断に委ねるとしつつも修業生はほとんどがマスクを着用しており、ドア・窓を解放して換気を実施して式典が行われました。

横須賀水交会から第138期初任海曹課程(80名)、成績優秀者1名に、横須賀防衛協会から14期海曹予定者課程(154名)成績優秀者1名に表彰状及び記念品が贈呈されました。

遠藤教育隊司令からは、厳しい安全保障環境の中、精強を維持する部隊の中核を担うとともに働き方改革などにも柔軟に対応していき、教育隊で培った「誇り、情熱」を忘れず精進するよう式辞がありました。

また、乾総監からは、部隊にも

どれば新しい目で見られると思
うが、同期と努力した日々を自
信と誇りとしてさらなる高みを
目指すとともに士気とプロフェ
ッショナルリズムを持つて変革の
時代にチャレンジ精神を發揮す
るよう訓示がありました。

当日は、3月とは思えないほ
ど暖かく、5分咲きの桜の下、修
業生のはつらつとした行進を見
送り行事を終了しました。

今回、横須賀水交会からは、以
下の方が表彰されました。
第138期初任海曹課程 ..

3等海曹 唐澤 誠

(からさわ まこと)

(吉岡 俊一 幹事 記)



【トピックス】

1 令和4年度 横須賀水交会

部隊研修(体験航海)開催

10月30日(日)、秋空の下、横
須賀水交会は、3年振りに部隊
研修を実施しました。今回は、横
須賀地方隊、開発隊群及び艦艇
開発隊の御協力を頂き、試験艦
「あすか」の体験航海となりま
した。

横須賀地方総監部では、前日
から「海上自衛隊創設70周年」
のイベントとして艦艇一般公開
を行っていました。早めに来ら
れた会員は、体験航海前に護衛
艦「いずも」等の艦艇一般公開を
楽しみ「護守印」を頂いた方もい
らっしゃいました。

14時出港のところ早めの出港
となり、秋の爽やかな風を感じ
ながら永田美喜夫横須賀水交會
会長以下186名の横須賀水交
會会員は、約1時間の久し振りの
体験航海を楽しみました。

部隊研修終了後は、「よこすか
平安閣」に会場を移し、永田会長
の挨拶、来賓の渡邊浩開発隊群

司令の乾杯で懇親会が始まりま
した。感染予防対策を十分に行
った上での開催であり、参加者
は162名でした。体験航海の
興奮冷めやらぬうちに横須賀水
交會恒例の会員が持ち寄ったお
宝(海自、他国海軍関係グッズ)
を景品とした抽選会が始まり、
今回は総員にいきわたるようそ
ろえていました。再会、または新
たな出会いの喜びも加わり、参
加者全員が大満足のうち、松下
泰士幹事長の中締めで部隊研修
は成功裏に幕を閉じました。

(石井 順 幹事 記)





2 第41回横須賀水交会主催

ゴルフコンペ

横須賀水交会主催ゴルフコンペは、コロナ渦のため取りやめを余儀なくされておりましたが、11月11日(月)約3年ぶりに、依然としてコロナ渦ではありませんでしたが、千葉房総半島の南総ヒルズカントリークラブにて41回目を開催することができました。

参加者は一般会員1名を含む13名と、例年に比し1/3程度の参加ではありましたが、半袖でプレーする会員もいるなど、絶好のゴルフ日和の天候にも恵まれ、和気あいあいと親睦を深めることができました。

今回の成績は、熊谷博之氏が、第39回に続きグロス84、ハンデキャップ10.8、ネット73.2で連続優勝、2位には今回一般会員として初参加された 曾我栄一氏(87、13.2、73.8)が、そして3位は大津雅紀氏(85、10.8、74.2)という結果でした。参加者は少数でしたが、中コーススタート2組、東コーススタート2組に分かれ、ドラコン、ニ

アピンを設定し、競い合いました。結果として、大津雅紀氏がドラコンを2つ、ニアピンを2つ、地蔵謙介氏及び熊谷博之氏がドラコンを1つ、ニアピンを1つ、曾我栄一氏、及川祐氏、乳井三治氏、松本幸一郎氏がニアピンを1つそれぞれ獲得しました。

今回は、コロナ感染防止に配慮し、プレー終了後のパーティー等は行わず、プレーのみの大会となりました。しかしながらコロナに負けず、今後とも会員の親睦を目的とし、水交會会員のみなならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交會の活動に理解を深めていただければと考えております。次回の開催は、6月を予定しております、奮ってのご参加よろしくお願ひします。(迫幸一郎 常務幹事記)



3 横須賀水交会防衛講座を

開催

令和5年2月22日(水) 17時30分からヴェルク横須賀第1研修室に(横須賀市日の出町)において、「横須賀水交会防衛講座」を開催しました。なお、今回は、次年度からの正規開催に向けての講座の実施要領について、参加者の皆様からご意見を頂くために第0回として試行的に開催しました。

この日の講師は、松下泰士横須賀水交会幹事長(元海上自衛隊自衛艦隊司令官)で、演題は『台湾有事は日本有事か 一我が国が為すべきこと』でした。講師は、その大半を作戦部隊で勤務した海上自衛官時代の経験や退官後の台湾海軍との交流等を通じて得た知識などをもとに、台湾を巡る周辺情勢や台湾の我が国にとっての重要性などを解説し、受講者の方々と共に、本題の「我が国が為すべきこと」について考えてみたいとの事で演目を設定されたそうです。受講者募集対象は横須賀水交

会有志会員及びその同行者でしたが、開催会場の制約もあり、参加者は16名でした。

終了後は、引き続き同じ会場でピザを摘まみながら懇談会を開催しました。なお、今回はノンアルコールとしました。懇談会では、参加者が順番に簡単な自己紹介をした上で講演の感想や横須賀防衛講座の運営要領についてご意見を頂きました。

今回の試行で頂戴した貴重なお意見を反映させ、次年度から正規に開催する計画です。「横須賀水交会防衛講座」が、横須賀水交会有志会員の方々にとって魅力的なイベントとなるよう創意工夫を重ねていきたいと考えております。

(一瀬 良文 事務局長 記)



【お知らせ】

第42回横須賀水交会主催

ゴルフコンペのご案内

皆様、奮って参加くださいますようご案内申し上げます。

① 期日

令和5年6月5日(月)

8時17分スタート

(フェリー1便(久里浜発))

② 場所

南総ヒルズC.C.

③ 費用

プレー費 9,150円

ロッカー代 330円

参加費 1,000円

④ 参加者

12組48名で予約

親睦を目的としていますので会員及びその家族並びに友人(非会員)等たくさんの方の参加を希望しています。特に女性の方の参加は大歓迎です。

⑤ 申し込み締め切り

令和5年5月26日(金)

⑥ 申込先

横須賀水交会常務幹事

迫 幸一郎

・アドレス

golf@y-suikoukai.sakura.ne.jp

・電話 03(5387)9323

090(7737)1197

・FAX

03(5387)9323

水交會「定期講演会」

動画配信のお知らせ

水交會(東京)では講師を招き毎月定期講演会を開催しております。過去の定期講演会の一部を動画配信しています。詳しくは水交會ホームページの「定期講演会実績」をご覧ください。(石井 順 幹事 記)

横須賀水交會 全会員用

メーリングストについて

「メールによる 会員の皆様への行事等のご案内」を行っております。つきましては、メーリングリストへの登録を希望される方は次の要領で「登録」をお願いいたします。

① 登録用アドレス

memberlist_regist@

y-suikoukai.sakura.ne.jp

② 登録内容

(例)

(1) 氏名・海尾 護

(2) 会員番号・0174183

(3) メールアドレス

umiomamor@gmail.com

※登録アドレスは、お一人につき1アドレスとさせていただきます。何かご不明な点がございましたら、登録アドレスへご一報ください。以上、よろしくお願いたします。(檜森 晃治 幹事 記)



水交會からのSNS発信

水交會では、その活動等に関する周知を図るため、ホームページに加えて、SNSを使用し、その情報発信をしております。当会で最近実施したイベント等を逐次アップしていきます。是非ご覧ください。

Facebook 又は Instagram にて

「水交會」或いは「公益財団法人水交會」で検索して頂くと閲覧できます。

(石井 順 幹事 記)

叙勲受章者(春の叙勲)

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

令和4年秋の叙勲者

瑞宝小綬章・高田 博幸

(一瀬 良文 事務局長 記)

訃報

11月本紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

草薙六郎羽左衛門

(9月24日)

曾根 龍男 (10月23日)

津田 義憲 (11月20日)

西村 勝巳 (2月21日)

(一瀬 良文 事務局長 記)

新(編)入会員

令和4年10月〜2月

次の方々が横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。

(敬称略)

編入 八木 篤志 (有志)

入会

横山明子(有志) 宮路貴幸(幹候)

40) 本元正治(有志) 嘉山 賢

(有志) 栗田恵子(有志) 山田

久央(横教243) 奥村邦夫(有

志) 勝目純也(有志) 徳力 滋

(有志) 宇田川大造(有志)

石井和徳(部内25) 堂脇淳一

(有志) 守本正宏(有志) 防古居

泰之(幹候39) 武智啓三(有志)

筒井 薫(有志) 大沼俊吉(有志)

稲村孝穂(有志) 山岡鉄司(幹候)

87) 田中繁好(有志) 吉福俊彦

(部内26) 宮本一彦(幹候36)

川上雅永(幹候43)

(桂 眞彦 幹事 記)

【編集後記】

令和5年5月8日(月)から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行されます。それもあり、海上自衛隊等の各行事が開催され始めています。横須賀水交會会員もできる限り参加しております。皆様も機会があれば、是非参加をされて、新しい出会いを。そして、横須賀水交會新聞への投稿もよろしく願います。

(編集担当 石井)